

美術部

自由な空間と創作を楽しむ

キャンパスや画材が所狭しと置かれて、部員は26名。冬場は部室の真ん中に「タツ」も登場するなど、アットホームで自由な雰囲気大切にしている美術部は、年に6回ほど展示会を開催しています。

4月の「新入生歓迎展示会」と6月の「並木展」には、美術部にとってもふさわしい展示場があります。それは部室のある常三島体育館前の並木道です。ここを行き来する人全てがギャラリーという天然のオープン美術館です。



毎年12月前後に「卒業生展」があり、今年も4月25日(土)に大ホールで「卒業生展」を開催しました。この日は、卒業生が描いた作品が展示され、多くの来場者で賑わいました。



部長 工学部
化学応用工学科3年
田所 祐起 たどころ ゆうき



12月には「瓦礫展」を日亜会館のガレリア新蔵で開催。3月初めの「卒業展」をもって一年が終わります。部活は毎週木曜日の午後4時から6時頃まで行っていますので、興味のある人は見学だけでも気軽にどうぞ。絵画以外にも大歓迎です。

保健管理センター

保健管理センター所長
前田 健一 まだけけんいち



それって医療の常識?

最近傷の治療法に関する考え方が大きく変わってきました。以前傷は毎日消毒をし、ガーゼ交換を行うことや、傷を乾燥させることが常識のように思われていました。ところが現在、傷は乾燥させない、消毒しない、なるべく触らないが原則となっています。当センターでもこの閉鎖湿潤療法を取り入れ、傷が早くきれいに治るようになったことを実感しています。このように、当然と考えられていた医療行為が実は意味がなかったり、逆効果であったりすることがあります。

たとえば、風邪をひいて熱がある場合は入浴してはいけないと言われてきたのですが、今では新陳代謝を高めるために入浴は良いと考

えられています。運動についても、激しい運動は活性酸素を発生させ血管障害を引き起こすため、運動に慣れていない人が激しい運動をするのは不可というのが、現在の見解です。予防注射の後ではよくもんで下さいと言われてきたと思います。でもこれもあまりむと細胞障害を誘発し炎症を起こす可能性があります。また、アルコール消毒についても無効との結果が示されていますが、これについてはまだ一般的なコンセンサスが得られていないため、中止によるクレームが心配でなかなかやめられないというのが現状でしょうか。風邪をひいたときの早めの風邪薬や、寝る前のコップ一杯

の水なども疑わしい常識と言えるでしょう。過ぎたるは及ばざるがごとしで、やりすぎが、かえって問題となることもあります。たとえば、虫歯になるのには24時間以上かかるため、基本的には一日一回で大丈夫。磨き残しなどを考えて1日2回行えば十分のことです。頻回の歯磨きや磨き過ぎはエナメル質の摩耗を引き起こしたり、歯肉を傷めたり逆効果になることもあるかもしれません。また、目薬を頻回に差すことも大切な涙成分を失うこととなり動脈硬化が増えたり、石鹸の使い過ぎで皮膚が荒れたりすることもあてはまっています。

になり過ぎたり、寄生虫疾患がほとんどなくなったりしたためとする説もあります。最近もプールで泳いだ後に目を洗うのは逆効果であるとか、暗い中で本を読むことは視力低下にはつながらないとか、ポピドンヨードでのうがいには風邪の予防効果がないというような報告がでてきました。もちろんこれらが絶対的に正しいとは言えないですが、これらも疑わしい医療の常識が訂正されることがあるのではないのでしょうか。

